

知床・根室海峡におけるアホウドリ *Diomedea albatrus* の確実な初の連続目視記録

佐藤晴子¹・田澤道広²・長谷川正人³

1. 086-1831 北海道目梨郡羅臼町富士見町 57, 知床・根室海峡シャチ連絡会 2. 086-1822 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町 6-27, 羅臼ビジターセンター, (財)知床財団 3. 086-1833 北海道目梨郡羅臼町本町 27-1, (有)知床ネイチャークルーズ

The First, Repetitive and Confirmed Sighting Records of Short-tailed Albatross *Diomedea albatrus* in Shiretoko–Nemuro Strait, Eastern Hokkaido, Japan

SATO Hai¹, TAZAWA Michihiro² & HASEGAWA Masato³

1. Shiretoko–Nemuro Strait Orca Group, 57 Fujimi-cho, Rausu, Hokkaido 086-1831, Japan. DZF14072@nifty.com
2. Shiretoko Foundation, Rausu Visitor Center, 6-27 Yunosawa-cho, Rausu, Hokkaido 086-1822, Japan 3. Shiretoko Nature Cruises, LTD., 27-1 Hon-cho, Rausu, Hokkaido 086-1833, Japan

We report the first, confirmed and repetitive sightings of short-tailed albatrosses *Diomedea albatrus* along Shiretoko–Nemuro Strait coast, which is Sea of Okhotsk side of eastern Hokkaido. Total five sightings were made through June–August, 2007. All cases were single young juvenile, and at least two different individuals were identified.

はじめに

アホウドリ *Diomedea albatrus* は翼を広げると 2 m を超す大型海鳥で、繁殖期をのぞき北太平洋上の沖合いに棲息し、伊豆諸島の鳥島と尖閣諸島で繁殖する(叶内ら 2002; 河井ら 2003; 高野 2001; 日本鳥学会 2000; 藤巻 2000)。

人間による乱獲で一時は絶滅に瀕し、1962 年に国の特別天然記念物指定を受けているが、国と研究者らによる長年にわたる手厚い計画的な保護努力が徐々に実をむすび、長谷川(2007)によれば、現在地球上のアホウドリの総個体数はおよそ 2,000 羽に回復した。

北海道では本種は迷鳥とされ(藤巻 2000)、1800 年代に函館と小樽(河井ら 2003; 藤巻 2000)、近年では苫小牧(河井ら 2003)、1996 年に道東の浦幌で本種の幼鳥の記録がある(浦幌野鳥倶楽部 2000; 久保清司私信)。2002 年以降、国、日本とアメリカの複数の調査研究機関の共同ですめられてきた人工衛星による本種の非繁殖期の

行動追跡調査の結果、5–7 月に茨城県沖から道東沖の太平洋に行動海域があることが明らかになった(財団法人山階鳥類研究所 2006; Suryan et al. 2007)。

2007 年夏、道東の知床・根室海峡においてアホウドリが繰り返し確実に観察、撮影された。過去、北海道のオホーツク海側海域における本種の確実な出現報告はないため、ここに報告する。

観察地と観察方法

知床半島周辺と、根室海峡(知床半島から根室半島にかけての北海道岸と、千島列島南西部の国後島とはさまれた海域: 図 1) では、近年、海上から景観や野生動物を鑑賞する小型観光船が増加した。

著者らの観察は、いずれも根室海峡北部で、目梨郡羅臼町拠点の(有)知床ネイチャークルーズ運行の自然観察用観光船・エバーグリーン(19 t, 18 m, 旅客定員 50 人, 船長: 著者の一人である

長谷川正人) のイルカ・クジラウォッチング就航中に、偶然発見されたものである。初回は、乗客のひとりで野鳥の生態写真家・戸塚学氏 (Photo Office GAKU) が発見し、ほかは著者の一人である佐藤晴子が発見した。いずれのケースも写真撮影し、著者の一人である田澤道広が種を確認した。

個体の違いや年齢については、佐藤文男氏 (財団法人山階鳥類研究所研究員) に写真鑑定していただいた。

観察記録

2007年夏季、著者らによる根室海峡でのアホウドリの直接観察は6-8月にかけて計5回あり、表に観察月日、気象情報、発見位置、海水の表面温度、水深、個体情報を、図1に発見位置を示した。各発見は知床半島から離岸5海里(約9.3 km) 以遠の海面である。

すべて若いアホウドリで、換羽中でないもの(7月25日, 8月10日)は当歳, 換羽中のもの(6月24日, 7月2日, 8月31日)は2-3歳と推定され、少なくとも2個体確認されていたことが判明した。

1) 2007年6月24日

アホウドリは、フルマカモメ *Fulmarus glacialis* やオオセグロカモメ *Larus schistisagus* の小群が浮かぶ付近の海面に静かに浮かんでいた。低速から微速で接近を試みる船が、個体からおよそ20 mの距離に達したところ、アホウドリは助走し数百m離れた海面に着水。船が再接近を試みようとする、気配を察しこんどはすぐに助走し飛び去った(図2)。

2) 2007年7月2日

カモメ類とフルマカモメ数羽が海面に浮かぶ付近に、アホウドリも静かに浮いていた。船が低速接近を試みると、個体からおよそ300 mの距離に達したところ、助走し飛び去った(図3)。

3) 2007年7月25日

数羽のフルマカモメが点在する海面に、アホウドリは静かに浮かんでいた。船が低速接近試みると、個体から20 mほどの距離に達したとき助走、飛行し200 mくらい離れた海面に着水。同様の

表 1. 2007年根室海峡におけるアホウドリの観察記録. **Table 1.** Observation records of short-tailed albatross in Nemuro Strait, 2007.

# on Fig. 1	観察年月日 Date	観察時間 Time obsv.	緯度経度 Coordinates	天候 Weather	風向 Wind dir.	風力 Bft.	水温(°C) Water temp.	水深(m) Depth	個体数 Number	年齢 Age stage	人工標識の有無 Banding
1	June 24, 2007	10:59-11:15	44°03'01"N 145°22'03"E	くもり cloudy	SE	1-2	11.5	640	1	2-3歳 juvenile	なし none
2	July 2, 2007	10:06-10:08	44°02'06"N 145°23'01"E	晴れ fine	S	1	12.6		1	2-3歳 juvenile	不明 unknown
3	July 25, 2007	14:33-14:38	44°04'08"N 145°26'01"E	晴れ fine	SE	2	17.7	950	1	当歳 juvenile	なし none
4	Aug. 10, 2007	13:28-13:30	44°00'08"N 145°20'00"E	くもり cloudy	S	2	17.6	629	1	当歳 juvenile	不明 unknown
5	Aug. 31, 2007	14:57-15:04	44°05'02"N 145°23'02"E	くもり cloudy	S	2	18.5		1	2-3歳 juvenile	なし none

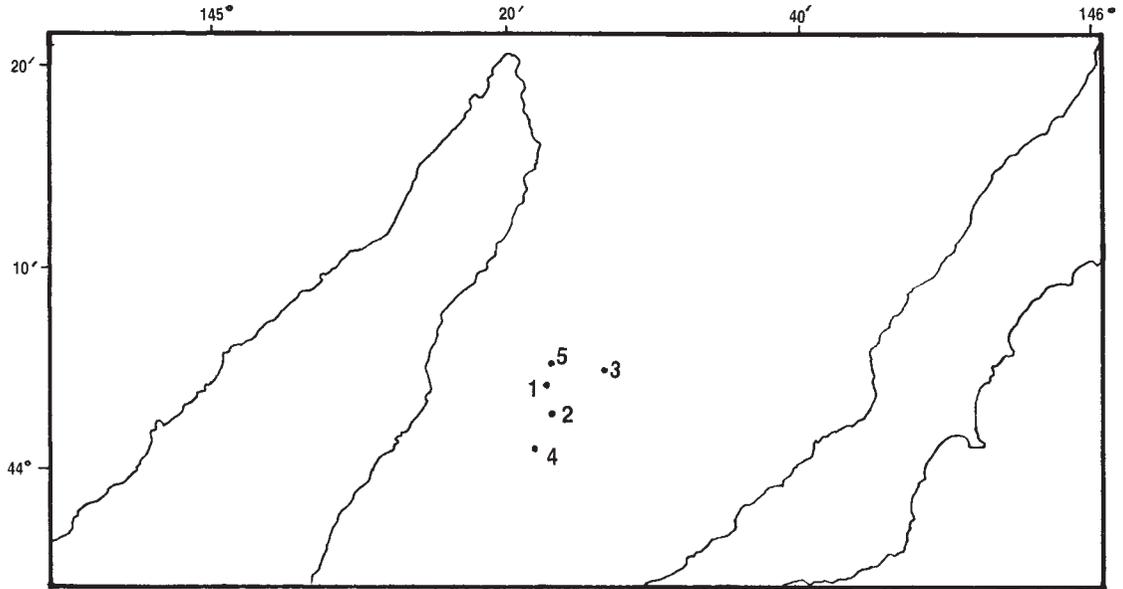


図 1. 2007 年夏季の根室海峡北部でのアホウドリの観察位置。 Fig. 1. The Sighting position of short-tailed albatrosses in northern Nemuro Strait, summer, 2007.

接近を繰り返すと、個体から約 30 m に達した頃、ふたたび助走し飛び去る (図 4)。

4) 2007 年 8 月 10 日

周囲にカモメ類もほかの海鳥もなく、ぽつんと静かに浮かんでいるアホウドリを発見。船が低速接近を試みたところ、ほとんど接近を許容せず早々に飛び去った (図 5)。

5) 2007 年 8 月 31 日

アホウドリは静かに浮かんでおり、周囲にほかの海鳥はいなかった。船は低速接近、個体から 20 m ほどの距離まで達する。個体は助走後いったん飛びたち、半円を描き、およそ 200 m 離れた海面に着水した。付近にカモメ類数羽と 1 羽のトウゾクカモメ *Stercorarius pomarinus* がおり、カモメ類は白色の海面漂流物付近にいた (図 6)。

ふたたび船が接近を試みると、海鳥たちは漂流している薄い発泡スチロール板 (水産物収納用の発泡スチロール箱のふたと推定) をついばんでおり、アホウドリもこれに関心を示し、独占すると積極的につついたりクチバシで挟もうとする行動が確認された (図 7)。

考察とまとめ

これまで知床・根室海峡で未報告であったアホ

ウドリの出現が反復確認された背景に、主に次の要因があると考えられる。

本種に対する経年の保護努力により、個体数が増加しつつあること。そして、海上からの観察手段が増加したことである。道東の根室支庁管内の鳥類リストの改訂を行った高田 (2001) は、当初、観察手段が限られていたため把握困難だったミズナギドリなど海鳥の出現情報が、近年、船による海上調査や観光船の増加により少しずつもたらされるようになったと評価している。

なお、著者らによる一連の直接観察のほか、当海域における本種と同定および本種と推定される大型海鳥の、最近の出現の未報告 2 例を以下に追記する。

知床海鳥研究会の福田佳弘氏によると、2006 年 6 月頃 (月日詳細不明)、知床半島北西側 (斜里郡斜里町のウトロ側) の岩尾別沖において、地域の漁業者がアホウドリの幼鳥 1 羽を発見、携帯電話付属のデジタルカメラで写真撮影し、同氏に報告した。種は福田氏によって同定されている (福田佳弘私信)。

また知床半島北西側のウトロ漁港発着の観光船を運行している、(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光 (本社: 目梨郡羅臼町) の船長の一人である遠藤辰男氏が、2007 年 7 月 7 日または 8 日の午前、硫黄山沖折り返しの往復所要約 1 時間の観光航路



図 2. 2007 年 6 月 24 日 確 認 の 個 体. Fig. 2. An individual sighted on June 24, 2007.



図 3. 2007 年 7 月 2 日 確 認 の 個 体. Fig. 3. An individual sighted on July 2, 2007.



図 4. 2007 年 7 月 25 日 確 認 の 個 体. Fig. 4. An individual sighted on July 25, 2007.



図 5. 2007 年 8 月 10 日 確 認 の 個 体. Fig. 5. An individual sighted on Aug. 10, 2007.



図 6. 2007 年 8 月 31 日 確 認 の 個 体. Fig. 6. An individual sighted on Aug. 31, 2007.



図 7. 海面を漂う発泡スチロール板をついばむ若いアホウドリ. Fig. 7. The juvenile pecks at a floating styrene foam.

の復路、離岸およそ 1.5 海里の海面に、「他の海鳥とくらべ格別に大きく、黒褐色、クチバシが淡色」の単独の海鳥が浮かんでいる姿を観察した(遠藤辰男私信)。

遠藤氏は職業柄、地域にふつうに出現する海鳥の姿かたちを親しんでおり、この目撃の前後に、著者らが根室海峡で説明と共通する年齢のアホウドリを繰り返し確認したことから、本件もおそらく著者らが観察した個体のいずれかであった可能性が高いと推定される。

将来、アホウドリの飛来が夏季の知床・根室海峡海域の常態になるものかどうか、今後も本種の出現に注目すべきだと思われる。

最後に、知床・根室海峡海域でアホウドリを観察して、海面漂流ゴミが海鳥に与える影響について憂慮される点があったので指摘しておきたい。

2007 年 8 月 31 日の観察で、海面を漂う発泡スチロール板の付近にカモメ類、トウゾクカモメがおり、そこに着水したアホウドリも漂流物に強い関心を示した。発泡スチロール板の縁や面に多数の孔や小さな欠損があり、アホウドリをふくむ海鳥たちが破砕片を摂取したものと推測された。同海域においても、化学物質製の漂流ゴミが貴重な海鳥の生存の脅威になり得ることが強く懸念された。

謝辞

本報をまとめるにあたり次の方々に協力いただいた。環境省羅臼自然保護官事務所(当時)の石名坂豪氏、浦幌野鳥倶楽部の久保清司氏、斜里町立知床博物館の中川元氏には文献の紹介で、財団法人山科鳥類研究所の佐藤文男氏には写真鑑定で、そして佐藤氏と知床海鳥研究会の福田佳弘氏には草稿へコメントをいただいた。また福田氏と(有)丸は宝来水産ゴジラ岩観光の遠藤辰男氏、

久保氏には有益な情報をいただいた。最後に斜里町立知床博物館の内田暁友氏と中川氏には編集および助言をいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 藤巻裕蔵. 2000. 北海道鳥類目録(第2版). 83 pp. 帯広畜産大学野生動物管理学的研究室, 帯広.
- 長谷川博. 2007. 大型海鳥アホウドリの保護. 山岸哲(監)・山階鳥類研究所(編), 保全鳥類学. 89-109 pp. 京都大学学術出版会, 京都.
- 叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄. 2002. 山溪ハンディ図鑑7日本の野鳥. 623 pp. 山と溪谷社, 東京.
- 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳. 2003. 北海道野鳥図鑑. 399 pp. 亜細亜社, 北海道.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録(第6版). 345 pp. 日本鳥学会, 帯広.
- Suryan R. M., Dietrich K. S., Melvin E. F., Balough G. R., Sato F. & Ozaki K. 2007. Migratory routes of short-tailed albatrosses: Use of exclusive economic zones of North Pacific Rim countries and spatial overlap with commercial fisheries in Alaska. *Biological Conservation* 137: 450-460.
- 高田令子. 2001. 根室支庁管内鳥類リスト. 根室市博物館開設準備室紀要. 15: 95-114.
- 高野伸二. 2001. フィールドガイド日本の野鳥. 343 pp. 財団法人日本野鳥の会, 東京.
- 浦幌野鳥倶楽部. 2000. 浦幌鳥類目録. 38 pp. 浦幌野鳥倶楽部, 浦幌町.
- 財団法人山階鳥類研究所. 2006. 平成18年山階芳麿賞贈賞式・受賞記念講演とシンポジウムアホウドリ復活への展望. 24 pp. 財団法人山階鳥類研究所, 千葉県.